

公園内で見られる植物他

写真は 12月13日（日）

1月10日（日）

2月20日（土）

自然観察会で見られた
植物です



ヤブツバキ（ツバキ科）

冬の代表的な花。真っ赤な色に虫が誘われたようです。しばらくすると花はポトッと散ります。



ヤブムラサキ (クマツヅラ科)

ムラサキシキブに似ているが、ヤブムラサキは枝や葉、萼に毛が多いので触るとふわっとしたピロロドのような感じがします。花は葉の陰に隠れるように下向きにつきます。実はまばらで熟すと紫色になります。



ハゼノキ (ウルシ科)

きれいに紅葉したハゼノキの葉。果実から和ロウソクの木ロウを取るために古くから栽培されています。ヤマウルシやヤマハゼの葉には毛がありますが、ハゼノキは毛がありません。かぶれる人がいるので注意。



サネカズラ (モクレン科)

別名、美男カズラ。昔武士が樹液を頭髪養毛料や整髪用としたり、薄めて洗髪用に用いたようで、「美男」になるという事からこの名が付いたようです。実はとってもおいしそうですが、食べられると記したものが無いので、試していません。



ウスタビガ

繭に包まれた不思議な卵。何の卵かと思わずシャッターを切った人がいました。よく調べてみると私の嫌いな蛾の幼虫が入っているようです。普通はもっと緑色をしているようですが、色が抜けて白っぽくなっていました。幼虫は触ると「キュー、キュー」とよく鳴くそうです。雄雌で色や形が違うそうなので、今年の晩秋に興味のある人は行ってみたいはいかがでしょうか？



マンサク (マンサク科)

名前に由来は、春の早い時期に先ず咲くからと説と、花が枝に満ちる様子から付いたという説がある。いずれにしても黄色い花は冬の時期にはよく目立ちます。ねじれたりボンのような花は不思議な美しさがあります。



アセビ (ツツジ科)

可憐な花だが、馬などがこの枝葉を食べると酔ったように足がしびれたり、けいれんを起こしてしまうので、「馬酔木」という名が付いています。何でも食べる鹿でもアセボトキシンを含むこの木は食べません。



オウレン (キンポウゲ科)

薬用植物の代表格ですが、種をまいて収穫できるまで少なくとも5～6年かかります。一般的に整腸薬として消化不良や下痢止めに用いられます。



ムベ (アケビ科)

ムベは伝説の果実で、「食べると長生きする」という言い伝えから「不老長寿の実」と言われて古くから昭和50年代まで皇室に献上されていました。アケビと違って実が熟しても割れません。



シキミ (シキミ科)

仏前に供える木として知られています。「抹香臭い」という言葉はこの木の香りを指しています。果実は特に毒成分が多く「悪しき実」とされ、それが略されてシキミとなったと言われ、植物の中で唯一劇物に指定されていますので、この実を集めて無届で販売したりすると罰せられますよ！！



ウグイスカグラ (スイカズラ科)

花の時期は大体4月～5月とありました。地方によっても違いが出ているのでしょうか？それとも季節が早まっているのでしょうか？4月～5月頃に赤く熟した実は食べると甘く、鶯がついばむのがわかります。